

ニュースター 第1号
平成3年 月 日

日本精神保健看護学会

-The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing-

事務局：
〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
(運営委員長：稲岡文昭)
TEL：03-3409-0875
FAX：03-3409-0589

■■日本精神保健看護学会設立主旨■■

本学会は、学術学会、シンポジウム、ワークショップ、講演会の開催、学会誌の発行などにより、精神看護学の発展をはかり、広く知識の交流を行うことを目的に平成3年7月に設立される学会である。

本学会設立の趣旨は、精神健康になんらかの問題を有する人に、医学志向や保護・管理志向からとらえるのではなく、心理社会的観点からとらえ、彼らの日常生活や社会生活の自立に貢献することにある。このことは、単に看護者個々の体験によるものでなく、意図的な経験の積み重ねや討論、研究、さらには近接学問領域専門家との共同の働きにより可能と考える。

本学会の会員は、設立趣旨に賛同し、精神看護学に携わる者、もしくは関連する専門領域の研究者としている。

平成3年7月6、7日の両日、日本赤十字看護大学において、日本精神保健看護学会の設立総会および第1回学術学会を開催する。

*** インフォメーション ***

- * *
- * ◎日本精神保健看護学会の会員証ができあがりました。 *
- * ニュースレターと同時に送付いたします。 *
- * ◎今後、年2回、ニュースレターをお届けする予定です。 *
- * ◎学会前に入会される場合には、業績等を問いませんので、みなさんに *
- * 入会をお誘い下さるよう、お願いします。 *
- * *

*** Information ***

《日本精神保健看護学会 発起人会を開催》

平成2年9月22日に開催、多くの参加者の賛同により、日本赤十字看護大学、稲岡文昭氏が設立準備運営委員長となった。同時に稲岡氏司会のもとにフォーラムがもたれた。各氏のフォーラム発表要旨は、下記のごとくである。

「施設内精神科看護の独自性」

長谷川病院 粕田孝行

現行の法的中で明示されている業務として、1)治療介助業務、2)療養上のお世話、がある。

今後、療養上の世話の発展に焦点をあて、看護は具体的に何をしているのか、何ができ得るのか、そして臨床での事例の分析の積み重ねにより、アプローチ手法の確立、その研究が重要になってこよう。

また、他職種とのかかわりの中での情報の提供などを通して、患者のケア、ケアのコーディネート技法とか、患者集団のマネージメントを含めた病棟管理の技法の確立が必要となってこよう。患者と付き合うことにより、病理、力動を学び、それらを他の科での活用開発を指向していく必要がある。学生には、疾患のもつ深い人生の暗い部分の学習として、タナトスの学習の場として提供することを模索する必要がある。

「生活支援の立場から」

千葉大学看護学部 横田 碧

精神看護とは、①一人ひとりの生活が、②その時々状況に応じて、③その人らしく、④かつ人間らしく送れるように、⑤あらゆる手だてをそこに集約してくることと位置づけた。

そして「生活」の内包は、①いのち、②ところ、③かかわり、④くらし、⑤いきがいの5層で成り立っていると考えると理解しやすい。さらに「当人の状況」と「周りの人の対応」とが、「時期と状況」においていかなる「タイミング」と「マッチング」にあるかによって「看護支援の方法と効果」が異なることの整理を通して、①内的環境、②心理的環境、③外的環境、に働きかける看護援助の相互関係性を明らかにした。

最後にまとめとして、精神科看護学を体系だてるのに必要な条件として、中核・領域・目的・立場・方法・道具の6点からその特徴を考えてみたが、この部分は今後の精選を必要とする。

「基礎教育における精神看護学の必要性」

北里大学看護学部 池田明子

北里大学看護学部は、今年初めて卒業生を送り出したばかりなので、基礎教育の担当者としては、まだ問題提起できる立場ではない。

看護学部に移る前は院内教育を担当しており、若い看護婦の患者との対応の場面で、「基礎教育における精神看護学の必要性」を痛感させられることが多々あった。看護の対象は「病気そのもの」ではなく、「病気をもった人間」にあると強調されてはいても、その「人間の反応をどのようにアセスメントするか」についての知識・技術が不足してい

るのではないか。

例えば、「患者の不安を軽減する」という看護計画はたてられても、「息苦しい」と窓を開ける患者に、「空調が効いているからその必要はない」「他の患者さんのことも考えて欲しい」とお説教してしまう卒後2年目の看護婦。その患者が「なぜ窓を開けるのか」という、患者の反応(患者の行動の持つ意味)に関心を向けることが出来ない。「勝手なことをされては困る」という看護婦側の都合が優先されてしまう現状。

一口に「患者の不安」といっても、日常生活の適度の緊張を与え、人間の成長につながるようなレベルから、「パニック」の状態まで、さまざまな不安のレベルがあり、それをアセスメントできる専門的な知識・技術が必要であり、ここに精神看護の専門性が求められるのではないだろうか。

しかし、今回のカリキュラム改訂でも、このような専門性は認められず、「精神看護学」の柱が打ち立てられなかったことは、基礎教育だけでなく、専門看護婦の育成にとっても非常に深刻な問題である。この点については、雑誌「看護」3月号の座談会(新カリキュラムの「精神保健」をめぐる)の中で、すべて言い尽くされている。

「リエゾン精神看護の役割と今後の課題」

聖路加看護大学 南 裕子

リエゾン精神看護は、精神看護学の知識と技術をもった看護婦が、身体的な疾患をもって入院している患者とそのケアにあたっている看護婦に対して、社会心理的な問題に対して専門的な立場から援助することをいう。通常、病棟で働く看護婦からみて、「ちょっとおかしい」、「理解しがたい」、「困った」「苦手」「いやな」患者で、そのためにケアがかみ合わず、患者にとっても看護婦にとってもフラストレーションが高まるような状態のうちに、その患者に直接的なケアを行ったり、また看護婦の相談にのったりするような機能をもつ。また、私は、日本におけるリエゾン精神看護は、職場から派生して来た看護婦の葛藤で、直属の上司では解決しがたい燃えつきのような社会心理的な問題をも対象にすると考えている。したがって、看護婦のための看護婦といえるだろう。

この機能を果たす看護婦は、対象理解と人間関係に関する精神看護学の知識と技術を有しており、かつ身体と心の関係が理解でき、さらに看護管理の機構や機能およびその問題がよくわかっていることが大切になる。したがって、専門看護婦すなわちスペシャリストであるので、卒後教育を受けて、かつ、願わくは、精神科および内科-外科のスタッフとしての経験と何らかの管理経験が必要である。アメリカでは、1985年の時点で90の大学院でリエゾン精神看護を専攻できるといわれている。

リエゾン精神看護が日本で定着するには、下記のような課題があると考える。

- 1)看護界においてリエゾン精神看護に限らず、看護のスペシャリスト制度が設けられるようになること。
- 2)看護婦が自分の問題を抱え込まないで、自由に他の専門家に相談できるようになること。
- 3)リエゾン精神看護の理論、技術を開発し、実践および研究に検証すること。
- 4)管理体制のなかの位置付けを検討する。
- 5)資格認定をどこが行うかを看護学会で検討する。
- 6)教育体制を他のスペシャリスト教育と併せて検討していく。

第1回 日本精神保健看護学会 総会・集会 プログラム

- とき：平成3年7月6日（土）、7日（日）
- ところ：日本赤十字看護大学
- メイン・テーマ：“いま、なぜ精神看護学なのか”
- プログラム

<第1日：7月6日（土）>

13:00-13:50

開会のことば
総会

14:00-15:00

対談 “いま、なぜ精神看護学なのか”
稲岡文昭（日本赤十字看護大学）
南 裕子（聖路加看護大学）

15:15-17:30

ワークショップ

担当

- (1) 精神力動概念をもちいた事例検討……………粕田孝行（長谷川病院）
- (2) 精神保健学の展開方法……………川野雅資（東京女子医大看護短大）
- (3) 精神（科）看護の実習指導……………川口優子（北里大学看護学部）
*第3回精神（科）看護実習検討会 金城祥教（聖隷短大）
- (4) 看護におけるグループ・アプローチ……………武井麻子（日本赤十字看護大学）
- (5) カウンセリングから学ぶー理解とその伝達……………横田 碧（千葉大学看護学部）
- (6) リエゾン精神看護……………南 裕子（聖路加看護大学）

18:00-20:00

懇親会（於：日本赤十字看護大学内、会費：5,000 円）

<第2日：7月7日（日）>

9:30-12:00

一般演題 ー主な研究領域ー

- (1) 精神障害者のケア
- (2) 心理社会的問題を有する患者のケア
- (3) 精神保健医療従事者への心理的サポート
- (4) 家族へのサポート
- (5) その他

（1題15分、討議15分）

13:30-16:00

シンポジウム <精神看護学への期待>

司会：池田明子（北里大学看護学部）

- シンポジスト：
- ・精神科看護の立場から……………羽山由美子（東京医科歯科大学）
 - ・母性、小児看護の立場から……………佐藤静子（松戸市立病院）
 - ・老人看護の立場から……………野口美和子（千葉大学看護学部）
 - ・成人看護(クリティカル)の立場から……………宇田真紀子（東京共済病院）

平成3年度；一般演題募集

*題名締切：4月15日（事務局あて葉書にて郵送、必着）

*抄録締切：5月15日（事務局あて必着）

- ・ワープロ原稿とし、B5版800字（横30字、縦30字）以内にまとめて、郵送のこととする。
- ・原稿の両サイドは、15mmの程の空白を設けること。
- ・原稿の頭には、タイトル、氏名、所属、発表者を記載する。
- ・共同研究者も学会員とする。

（題名、抄録ともファックスは不可）

<参加費用>会員、学生：3,000円、非会員：5,000円